



母校よ 永遠なれ！

第7回卒業生 岡田 讓

私は昭和28年度、第7回卒業生です。

坂野中学校69年の歴史を刻み、本年をもって閉校となる報に接し、万感胸に迫る思いを禁じ得ません。静かに卒業アルバムを開き、校章を眺めていると、坂野の根上松、和田島の波濤、田園広がる新開の沃野、三小学校の特色が見事に融合、調和していることに、改めて懐しく感銘を強くしました。

感傷に浸り、中学生時に通った道を歩いてみました。そして校庭の一角に立つと、66年前の木造校舎の棟々、東西に広がった運動場、その更に東には、坂野を象徴する根上松の雄姿、そして教えていただいた恩師の面影、更に日の暮れるまで汗と泥にまみれて過した友人たちの顔々が、昨日のように思い出されました。

三年生時に和田島教場が統合され、人数が増えた私達を放課後遅くまで、運動に進路指導にあたっていただいた恩師も殆どの方が他界され、お元気な先生は瀧 健一先生お一人になりました。そして、共に過ごした同窓生にも永久の別れをするようになり、寂しい思いもしています。

いつか同窓会の席で、「どんなすばらしい教育を受けたか、どうかということ、どれだけ多くの思い出をつくり得たか、どうかということである。」との話を聞いたことがあります。このことを、坂野中学校時代と重ねてみると、三年間は正に思い出の宝庫であり、感動とドラマの日々であったことが思い返されます。

同窓会を開く度に、いつも多くの顔が見られます。それは、ふる里を誇りに思い、共に過ごした母校への熱い強い愛校心で結ばれている証であると信じています。

昨年秋、畿内の友にも呼びかけて、淡路島に集い、祝杯をあげ青春を語り合いました。

話題の中心は健康問題、本人はもちろん、家族や同窓生一人ひとりの情報に話は沸騰しました。また中学生時代は、多感な思春期の頃、好きだった子の名前がとび出し、シニアの同窓会とは思えない熱気に包まれました。大阪より参加してくれた吉岡忠義さんが作詞された「思い出すなあ坂野中学校」の歌が披露され、宴席を大いに盛り上げてくれました。後半はいつもの歌舞音曲を交え、楽しい時間を共有しています。同窓会は何歳になっても青春です。

坂野中学校の輝かしい歴史と伝統、そして卒業生が営々と築き積み上げてきた、不朽の功績と栄光を讃え、閉校への追憶のペンを置きます。

坂野中学校万才！

卒業生の心に輝け！いつまでも！

そして

若人よ！新しい栄光の歴史を刻め！